

0. 文字

当言語の文字は、**対清音字**、**対濁音字**、**中立音字**、**半母音字**、**母音字**の五種類に分けられる。
又、順序, 文字, 音価, 名称は以下の通りである。

p	b	f	v	t	d	s	z	x	j
p	b	f	v	t	d	s	z	ʃ	ʒ
paf	baf	fat	vat	tas	das	sax	zax	xak	jak
k	g	m	n	c	r	l	w	y	i
k	g	m	n	r	ɹ	l	β	j	i
kap	gap	maf	naf	cat	rat	las	was	yax	ix
e	a	o	u	h	q				
e	a	o	u	h	ə				
ek	ak	op	up	haf	qf				

- ※cは原則として語頭に立たない。(母音が連続するのみ、後ろの母音の語頭に付ける。)
- ※hとqは固有名詞以外では用いない。
- ※指示詞・数詞以外では、母音は連続しない。
- ※母音字以外を総称して子音字という。

1. 在詞

指示詞、代詞、名詞を在詞と呼ぶ。

1-1. 指示詞

必ず、語頭は母音字、語末は"s"或いは"t"である。
以下に示すのは独立用法。係在用法は"a"を接尾。所有用法は"es"を接尾。

	単数	複数
一人称	As	Aos / Aes
二人称	Es	Eos

三人称	男性		女性		中性	
	単数	複数	単数	複数	単数	複数
近称	Os	Oos	Is	Ios	Us	Uos
遠称	Ot	Oot	It	Iot	Ut	Uot

1-2. 代詞

必ず、語頭は母音字、語末は、"p, f, x, k"のどれかで終わる。
以下に示すのは独立用法。係在用法は"a"を接尾。所有用法は"es"を接尾。

	疑問	全体	部分	任意	特定	選択	譲歩	零
生物	Ap	Op	Ep	Up	Ip	Ax	Ox	Ex
非生物	Af	Of	Ef	Uf	If	Ak	Ok	Ek

1-3. 名詞

必ず対清音字で終わる。
但し、固有名詞は大文字で始め、接辞が付く場合は-で繋ぐ。
語末が対清音字でない場合は、-sを付け、接尾辞はこのsより後に付ける。
又、etを接尾すると所有用法、oを接尾すると補語となる。

2. 述詞

動詞と状態詞を述詞と呼ぶ。

2-1. 動詞

必ず、対濁音字で終わる。自動詞は存在しない。
但し、

2-2. 状態詞

状態詞には、独立形、係在形、係動形の3つの形がある。
全て後置修飾する。又、被修飾語に近いものほど意味は強い。

2-2-1. 独立形

語末は"o"。補語用法と係状用法の2つに分けられる。

- ① 補語用法 …補語となる用法。主語の後ろに置く。
- ② 係状用法 …状態詞を修飾する用法。

2-2-2. 係在形

いわゆる形容詞。語末は"a"。

在詞を修飾する。つまり、代詞や指示詞も非限定的に修飾できる。

2-2-3. 係動形

いわゆる副詞。語末は"e"。動詞を修飾する。

3. 法詞

動詞の法を表す。語末は"n"。

直説法	(無標)
仮定法	lan
命令法	non
勧誘法	men

4. 態詞

動詞の態を表す。語末は"r"。

能動態	(無標)
受動態	ler
中間態	nar

5. 時制詞

動詞の時制を表す。語末は"n"。

大過去	anan
過去	an
現在	(無標)
通時	un
未来	on
大未来	onon

6. 相詞

動詞の相を表す。語末は"r"。

無相	(無標)
進行相	or
完了相	ar
継続相	ur
将然相	ir
反復相	er

7. 係詞

いわゆる前置詞。語末は"l"。

xalとfolは倒置文でのみ用いる。elはaを付けずに係在用法となる。

又、係詞の語頭にaをつけると、係在用法となる。

主格	(xal)	～が
属格	el	～の
対格	(fol)	～を
与格	sul	～に
処格	til	～で
奪格	tol	～から
変格	xol	～まで
係格	lel	～の
様格	sal	～として
題格	kol	～について
欠格	del	～なしで
時格	kal	～に

具格	nul	～を使って
比格	jel	～より
受格	yul	～によって
状格	zel	～の状態で
並格	mol	～しながら
保格	pol	～したまま
従格	kul	～につれて
共格	vel	～と共に
喩格	xal	～のように
由格	mul	～のせいで
奉格	fel	～の為
同格	nol	～である
量格	tel	～である

8. 接続詞

語末は"m"。

	強	弱	略式
接続	lom	om	,
順接	zom	som	„
逆接	vam	fam	
原因	bam	pam	
結果	gom	kom	
程度	dom	tom	
条件	zem	sem	
譲歩	jem	xem	

連言	om	※略式:&
選言	em	※略式:/

9. 句詞

oとeで挟む。

o～eは、名詞句/節を導く。

- ① 状態詞による修飾はできない。
- ② eは文末では省略される。
- ④ "～"は完全文でなくても良い。(動名詞を作る場合など。)

- ⑤ oをaにすると形容詞句/節、eにすると副詞句/節となる。
 ※ 関係副詞の用法はない。係詞を後続の節内に残す。

10. 数詞

名詞にそのまま後置すると基数、語頭にaを付けて後置すると序数を表す。
 単体で名詞として用いることはなく、名詞として用いる場合は"o 数詞 e"の形をとる。

0 xee	10 riu	20	riufe	=10*2
1 pia	11 riupia	30	riute	=10*3
2 fua	12 riufua	40	riuse	=10*4
3 tea	13 riutea	50	riuxe	=10*5
4 soa	14 riusoa	100	riufo	=10^2
5 xai	15 riuxai	150	riufo,riuxe	=10^2+10*5
6 kui	16 riukui	175	riufo,riume,xai	=10^2+10*7+5
7 mei	17 riumei	200	riufofe	=(10^2)*2
8 noi	18 riunoi	1000	riuto	=10^3
9 cau	19 riucau	10000	riuso	=10^4
		12345	pufutusuxai	
※赤字の数字を"原数字"という。		12345	ruito,ruitofe,ruifote,ruise,xai	
		3.14	tea-lot-pusoa	
		$\frac{1}{5}$	pia-jok-xai	

- ① 原数字を並べると足し算になる。3桁以上では","を間に挟む。
- ② 原数字の二重母音をeにして並べると掛け算になる。
- ③ 原数字の二重母音をoにすると、指数となる。
- ④ 掛け算は、その左にあるもの全体に掛かる。
- ⑤ 10000超の数字は、各位ごとに原数字で数字を読み上げる。その際、一の位以外、原数字の二重母音はuとなる。但し、 10^n で表せる数は③で表す。
- ⑤' "ruito,ruitofe,ruifote,ruise,xai"のように表しても良い。
- ⑥ 小数は、小数点より左を上記の方法で表し、小数点をlotと読み上げ、小数点より右は⑤の方法で表す。
- ⑦ 分数は、"分子-tol-分母"と表す。

11. 感動詞

語末は"u"。

12. 補助詞

他の品詞では表せない微妙なニュアンスを付け足す。語末は"i"。
 重要なものを上げておくと、否定の補助詞ki, 疑問の補助詞fi(いずれも動詞の直後に置く。)などがある。

13. 語順

SVO, Pr, NA, NGである。
 が、文意が一通りに定まるならば、SVOでなくても良い。
 又、大文字を用いるのは固有名詞の語頭のみとする。
 但し、法詞・態詞・時制詞・相詞については、"法態 動時相"の順に並べる。
 繋辞はoとして存在するものとして扱う。

14. 用語解説

係在用法 在詞を修飾する用法。代詞、指示詞も、非限定的に修飾できる。
所有用法 所有代名詞にあたる用法。（「～のもの」と訳す。）

15. 敬語

動詞の直後にesiを置くと尊敬語、asiを置くと丁寧語になる。（謙讓語はない。）
又、敬称については、名前に-esiを後置する。

16. 補足

① ハイフンで始まる接尾語は、ハイフンを付ける代わりに上付き文字でも表せる。

17. 分詞

能動分詞

受動分詞

中間分詞